

# 厚板向け台車式磁粉探傷装置

## マークテック 半自動化製品を発売

### 省人化ニーズを捕捉

非破壊検査・マークテック事業などを手掛けるアルコニックスグループのマークテック（社長・西本圭吾氏）は、半自動化した「台車式四極磁粉探傷装置」

の写真を掲載し、販売を開始した。すでに国内鉄鋼

大手への納入実績も上げており、今後さらに省人化ニーズを取り込む考え。

マークテックは装置から消耗品まで非破壊検査関連市場を手広く手掛ける大手メーカー。非破壊検査装置では浸透探傷装置、磁粉探傷装置、渦流探傷装置などをラインアップしている。

今回、半自動化を実現したのは厚板用の磁粉探傷装置。厚板における従来の磁粉探傷は、手持ちサイズの磁化器（ハンドマグナ）を用いて厚板を磁化し、蛍光塗料をコーティングした磁粉探傷剤を吹きかけ、ブラックライトを照射してきずの有無を確認する。一般的に一連の作業を複数人

で担当するため、時間と工数が掛かっていた。

こうした鉄鋼大手の合理化ニーズを受け、マークテックはこのほど厚板の磁化からきずの確認まで半自動化した磁粉探傷装置を開発した。新製品は四極同時磁化器と探傷剤の噴出設備、ブラックライト照射機能、小型カメラによる画像取り込みシステムを一台の台車に集約したもの。一人の作業者が厚板の上で台車を走行させるだけで一連の作業を完了でき、観察データはトレスナビリティのために保管することが可能だ。

マークテックはすでに同製品を国内の大手メーカーに1基納入した。中島正人氏（国内営業部長）は「製造現場の省人化ニーズは非常に強まっている。画像取り込みによるトレスナビリティの確保まで対応できるようになり、作業負担の軽減が可能になると考えてい

